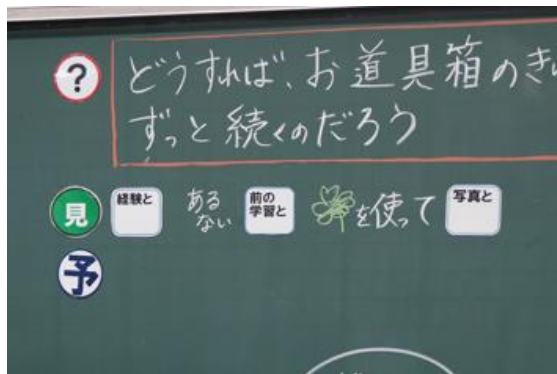


視点2

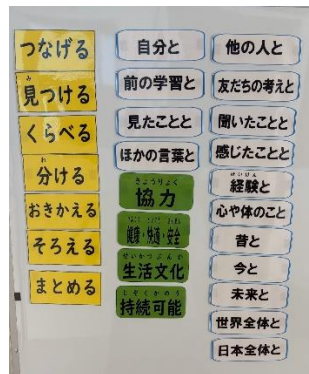
教科の本質に迫り考えをつなぐ学び合いの充実（他者とのかかわり）

① 各教科等の「見方・考え方」を働かせるための手立て

各教科の見方・考え方を働かせるために、事象に対しての見方・考え方を児童が活用しやすい言葉で表現したカードを活用している。このカードは、各教室に常に掲示しておき、いつでも確認しながら、活用できる環境を整えている。教師が、板書に、カードを活用し、児童の発言を価値づけることで、どの見方・考え方を使ったのかを可視化できるようにしている。例えば、家庭科で、「洗剤を入れすぎると、環境に悪い影響がある。」と答えた児童に対し、「地球の『未来』のことを含めて考えることができたんだね。」と、児童の考えを価値づけるようにする。繰り返し何度も使っていくことで、児童は、課題を解決するために、適切なものの見方・考え方を選択し、働かせて考えることができるようになる。また、話し合いを活性化するために全校生で取り組んでいる「谷トーーーク！」でも、家庭科に繋がる課題を設定し、視点カードを働かせながら、話し合いを深めていくことができるようにしている。



【家庭科の授業でカードを活用する様子】



【視点カード】

② 目的意識・他者意識をもった対話的場面の設定

第6学年 家庭科「服がよろこぶ、ひと手間を。～衣服の手入れが導く快適生活への挑戦～」

児童が内発的に、「友達と話し合って解決したい。」と思えるよう、洗剤の量に合わせて、「きれいさ」や「すすぎの回数」はどうであったか、自分で点数をつける活動を取り入れた。

数値で示すことで、自分の考えが整理され、どの洗剤量が適量であるかはっきりと認知することができた。また、適量だと思う欄にネーム磁石を貼らせ、自分や友だちの立場を視覚認知できるようにした。児童は、自分と友だちの考えの違いに気づき、「どうして〇〇くんは、『多め』に置いたのだろう。」と疑問をもち、自然と「理由を聞いてみたい。」「話し合いをしたい。」と話し合いの場面の必要性を感じることができた。話し合いでは、「適切な洗剤の量」という話し合いの目的が明確であるため、児童が活発に意見交換する様子が見られた。

	少なめ	めやす量	多め
きれいさ	Q	Q	Q
すすぎの回数	Q	Q	Q

【タブレットで児童がつけた点数を集約する】